第五講　マーク式　その3

《小説》テーマ「幸福な王子」

次の文章は、複数の作家による『捨てる』という題の作品集に収録されている光原百合（みつはらゆり）の小説「ツバメたち」の全文である。この文章を読んで、後の問い（**問１～５**）に答えよ。なお、本文の上の数字は行数を示す。

〈一羽のツバメが渡りの旅の途中で立ち寄った町で、「幸福な王子」と呼ばれる像と仲良くなった。王子は町の貧しい人々の暮らしぶりをツバメから聞いて心を痛め、自分の体から宝石や金箔（きんぱく）を外して配るよう頼む。冬が近づいても王子の願いを果たすためにその町にとどまっていたツバメは、ついに凍え死んでしまった。それを知った王子の心臓は張り裂けた。金箔をはがされてみすぼらしい姿になった王子の像は溶かされてしまうが、二つに割れた心臓だけはどうしても溶けなかった。ツバメの死骸と王子の心臓は、ともにゴミ捨て場に捨てられた。その夜、「あの町からもっとも尊いものを二つ持ってきなさい」と神に命じられた天使が降りてきて、ツバメと王子の心臓を抱き、天国へと持ち帰ったのだった。

オスカー・ワイルド作「幸福な王子」より〉

A遅れてその町にやってきた若者は、なんとも風変わりだった。

つやのある黒い羽に敏捷（びんしょう）な身のこなし、実に見た目のいい若者だったから、南の国にわたる前、最後の骨休めをしながら翼の力をたくわえているあたしたちの群れに、問題なく受け入れられた。あたしの友だちの中にも彼に興味を示すものは何羽もいた。でも、彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから――今まで見てきた北の土地について、これから飛んでいく南の国について、遠くを見るようなまなざしで語るばかりだったから、みんなそのうち興味をなくしてしまった。来年、一緒に巣をこしらえて子どもを育てる連れ合いには、そこらを飛んでいる虫を素早く見つけてたくさんつかまえてくれる若者がふさわしい。遠くを見るまなざしなど必要ない。

とはいえ嫌われるほどのことではないし、厳しい渡りの旅をともにする仲間は多いに越したことはないので、彼はあたし

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たちとそのまま一緒に過ごしていた。

そんな彼が翼繁（しげ）く通っていたのが、丘の上に立つ像のところだった。早くに死んでしまった身分の高い人間、「王子（プリンス）」と人間たちは呼んでいたが、その姿に似せて作った像だということだ。遠くからでもきらきら光っているのは、全身に金が貼ってあって、たいそう高価な宝石も使われているからだという。あたしたちには金も宝石も用はないが。

人間たちはこの像をひどく大切にしているようで、何かといえばそのまわりに集まって、列を作って歩くやら歌うやら踊るやら、(ア)ギョウギョウしく騒いでいた。

彼はその像の肩にとまって、あれこれとおしゃべりするのが好きなようだった。王子の像も嬉（うれ）しそうに応じていた。

「一体何を、あんなに楽しそうに話しているの？」

彼にそう聞いてみたことがある。

「僕の見てきた北の土地や、まだ見ていないけれど話に聞く南の国のことをね。あの方はお気の毒に、人間として生きていらした間も、身分が高いせいでいつもお城の中で守られていて、そう簡単にはよその土地に行けなかったんだ。憧れていた遠い場所の話を聞けるのが、とても嬉しいと言ってくださってる」

「そりゃよかったわね」

あたしたちには興味のない遠い土地の話が、身分の高いお方とやらには嬉しいのだろう。誇らしげに話す彼の様子が腹立たしく、あたしはさっさと朝食の虫を捕まえに飛び立った。

やがて彼が、王子と話すだけでなく、そこから何かをくわえて飛び立って、町のあちこちに飛んでいく姿をよく見かけるようになった。南への旅立ちも近いというのに一体何をしているのか、あたしには不思議でならなかった。

風は日増しに冷たくなっていた。あたしたちの群れの長老が旅立ちの日を決めたが、それを聞いた彼は、自分は行かない、と答えたらしい。自分に構わず発（た）ってくれと。

仲間たちは皆、彼のことは放っておけと言ったが、あたしは気になった。いよいよ明日は渡りに発つという日、あたしは

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

彼をつかまえ、逃げられないよう足を踏んづけておいてから聞いた。ここで何をしているのか、なにをするつもりなのか。

彼はあたしの方は見ずに、丘の上の王子の像を遠く眺めながら答えた。

「僕はあの方を飾っている宝石を外して、それから体に貼ってある金箔をはがして、貧しい人たちに持って行っているんだ。あの方に頼まれたからだ。あの方は、この町の貧しい人たちが食べ物も薪（まき）も薬も買えずに苦しんでいることを、ひどく気にしておられる。こんな悲しいことを黙って見ていることはできない、けれどご自分は台座から降りられない。だから僕にお頼みになった。僕が宝石や金箔を届けたら、おなかをすかせた若者がパンを、凍える子どもが薪を、病気の年寄りが薬を買うことができるんだ」

あたしにはよくわからなかった。

「どうしてあなたが、それをするの？」

「誰かがしなければならないから」

「だけど、どうしてあなたが、その『誰か』なの？　なぜあなたがしなければならないの？　ここにいたのでは、長く生きられないわよ」

あたしは重ねて聞いた。彼は馬鹿にしたような目で、ちらっとあたしを見た。

「君なんかには、僕らのやっていることの尊さは B わからないさ」

腹が立ったあたしは「勝手にすれば」と言って、足をのけた。彼ははばたいて丘の上へと飛んで行った。あたしはそれをただ見送った。

長い長い渡りの旅を終え、あたしたちは南の海辺の町に着いた。あたしは数日の間、海を見下ろす木の枝にとまって、沖のほうを眺めていた。彼が遅れて飛んで来はしないかと思ったのだ。しかし彼が現れることはなく、やがて嵐がやって来て、数日の間海を閉ざした。

この嵐は冬の（イ）トウライを告げるもので、北の町はもう、あたしたちには生きていけない寒さになったはずだと、年かさのツバメたちが話していた。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

　彼もきっと、もう死んでしまっているだろう。
　彼はなぜ、あの町に残ったのだろうか。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。あたしなどにはそんな志はわからないのだと。でも本当のところは、大好きな王子の喜ぶ顔を見たかっただけではないか。
　そうして王子はなぜ、彼に使いを頼んだのだろう。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。でも……。
　まあいい。どうせあたしには<u>わからない</u>（C）、どうでもいいことだ。春になればあたしたちは、また北の土地に帰っていく。あたしはそこで、彼のような遠くを見るまなざしなど持たず、近くの虫を見つけてせっせとつかまえ、子どもたちを一緒に育ててくれる若者とショ<u>タイ</u>（ウ）を持つことだろう。
　それでも、もしまた渡りの前にあの町に寄って「幸福な王子」の像を見たら、聞いてしまうかもしれない。
　あなたはただ、自分がまとっていた重いものを、捨てたかっただけではありませんか。そして、命を捨てても自分の傍（そば）にいたいと思う者がただひとり、いてくれればいいと思ったのではありませんか――と。

（光原百合他『アンソロジー　捨てる』による。）

問１　傍線部（ア）～（ウ）に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

（ア）　<u>ギョウギョウ</u>しく
①　会社の<u>ギョウ</u>セキを掲載する
②　ク<u>ギョウ</u>に耐える
③　思いを<u>ギョウ</u>シュクした言葉
④　イ<u>ギョウ</u>の鬼
⑤　<u>ギョウ</u>テンするニュース

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（イ）　トウライ
①　孤軍フントウ
②　本末テントウ
③　トウイ即妙
④　用意シュウトウ
⑤　不偏フトウ

（ウ）　ショタイを持つ
①　アクタイをつく
②　新たな勢力のタイトウ
③　タイマンなプレー
④　家庭のアンタイを願う
⑤　秘書をタイドウする

問２　傍線部Ａ「遅れてその町にやってきた若者は、なんとも風変わりだった。」にある「若者」の「風変わり」な点について説明する場合、本文中の波線を引いた四つの文のうち、どの文を根拠にするべきか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

①　つやのある黒い羽に敏捷な身のこなし、実に見た目のいい若者だったから、南の国にわたる前、最後の骨休めをしながら翼の力をたくわえているあたしたちの群れに、問題なく受け入れられた。
②　あたしの友だちの中にも彼に興味を示すものは何羽もいた。
③　でも、彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから――今まで見てきた北の土地について、これから飛んでいく南の国について、遠くを見るようなまなざしで語るばかりだったから、みんなそのうち興味をなくしてしまった。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　とはいえ嫌われるほどのことではないし、厳しい渡りの旅をともにする仲間は多いに越したことはないので、彼はあたしたちとそのまま一緒に過ごしていた。

問３　傍線部Ｂ「わからないさ」及び傍線部Ｃ「わからない」について、「彼」と「あたし」はそれぞれどのような思いを抱いていたか。その説明として最も適当なものを、傍線部Ｂについては次の【Ⅰ群】の①～③のうちから、傍線部Ｃについては後の【Ⅱ群】の①～③のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

【Ⅰ群】

①　南の土地に渡って子孫を残すというツバメとしての生き方に固執し、生活の苦しさから救われようと「王子」の像にすがる町の人々の悲痛な思いを理解しない「あたし」の利己的な態度に、軽蔑の感情を隠しきれない。

②　町の貧しい人たちを救おうとする「王子」と、命をなげうってそれを手伝う自分を理解するどころか、その行動を自己陶酔だと厳しく批判する「あたし」に、これ以上踏み込まれたくないと嫌気がさしている。

③　群れの足並みを乱させまいとどう喝する「あたし」が、暴力的な振る舞いに頼るばかりで、「王子」の行いをどれほど熱心に説明しても理解しようとする態度を見せないことに、裏切られた思いを抱き、失望している。

【Ⅱ群】

①　「王子」の像を金や宝石によって飾り、祭り上げる人間の態度は、ツバメである「あたし」にとっては理解できないものであり、そうした「王子」に生命をかけて尽くしている「彼」のこともまたいまだに理解しがたく感じている。

②　無謀な行動に突き進んでいこうとする「彼」を救い出す言葉を持たず、暴力的な振る舞いでかえって「彼」を突き放してしまったことを悔い、これから先の生活にもその後悔がついて回ることを恐れている。

③　貧しい人たちを救うためというより、「王子」に尽くすためだけに「彼」は行動しているに過ぎないと思っているが、「彼」自身の拒絶によってふたりの関係に介入することもできず、割り切れない思いを抱えている。

問４　この小説は、オスカー・ワイルド「幸福な王子」のあらすじの記載から始まっている。この箇所（Ｘ）とその後の文章（Ｙ）

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

との関係はどのようなものか。その説明として適当なものを、次の①〜⑥のうちから二つ選べ。

① Xでは、神の視点から「一羽のツバメ」と「王子」の自己犠牲的な行為が語られ、最後には救済が与えられることで普遍的な博愛の物語になっている。ツバメたちの視点から語り直すYは、Xに見られる神の存在を否定した上で、「彼」と「王子」のすれ違いを強調し、それによってもたらされた悲劇へと読み替えている。

② Xの「王子」と「一羽のツバメ」の自己犠牲は、人々からは認められなかったものの、最終的には神によってその崇高さを保証される。Yでも、献身的な「王子」に「彼」が命を捨てて仕えただろうことが暗示されるが、その理由はいずれも、「あたし」によって、個人的な願望に基づくものへと読み替えられている。

③ Yでは、「あたし」という感情的な女性のツバメの視点を通して、理性的な「彼」を批判し、超越的な神の視点も破棄している。こうして、「一羽のツバメ」と「王子」の英雄的な自己犠牲が神によって救済されるというXの幸福な結末を、「あたし」の介入によって、救いのない悲惨な結末へと読み替えている。

④ Yには、「あたし」というツバメが登場し、「王子」に向けた「彼」の言動の不可解さに言及する「あたし」の心情が中心化されている。「一羽のツバメ」と「王子」が誰にも顧みられることなく悲劇的に終わるXを、Yは、「彼」と家庭を持ちたいという「あたし」の思いの成就を暗示する恋愛物語へと読み替えている。

⑤ Xは、愚かな人間たちによって捨てられた「一羽のツバメ」の死骸と「王子」の心臓が、天使によって天国に迎えられるという逆転劇の構造を持っている。その構造は、Yにおいて、仲間によって見捨てられた「彼」の死が「あたし」によって「王子」のための自己犠牲として救済されるという、別の逆転劇に読み替えられている。

⑥ Xでは、貧しい人々に分け与えるために宝石や金箔を外すという「王子」の自己犠牲的な行為は、「一羽のツバメ」の献身とともに賞賛されている。それに対して、Yでは、「王子」が命を捧げるように「彼」に求めつつ、自らは社会的な役割から逃れたいと望んでいるとして、捨てるという行為の意味が読み替えられている。

問５　次の【Ⅰ群】のａ〜ｃの構成や表現に関する説明として最も適当なものを、後の【Ⅱ群】の①〜⑥のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【Ⅰ群】

a　1～7行目のオスカー・ワイルド作「幸福な王子」の記載

b　12行目「彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから――」の「――」

c　56行目以降の「あたし」のモノローグ（独白）

【Ⅱ群】

①　最終場面における物語の出来事の時間と、それを語っている「あたし」の現在時とのずれが強調されている。

②　「彼」の性質を端的に示した後で具体的な例が重ねられ、その性質に注釈が加えられている。

③　断定的な表現を避け、言いよどむことで、「あたし」が「彼」に対して抱く不可解さが強調されている。

④　「王子」の像も人々に見捨てられるという、「あたし」にも想像できなかった展開が示唆されている。

⑤　「あたし」の、「王子」や「彼」の行動や思いに対して揺れる複雑な心情が示唆されている。

⑥　自問自答を積み重ねる「あたし」の内面的な成長を示唆する視点が加えられている。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　光原百合＝みつはら　ゆり（一九六四〜）広島県生まれ。大阪大学文学部文学科卒、同大学院博士後期課程満期退学。尾道市立大学芸術文化学部教授。

●オスカー・ワイルド（一八五四〜一九〇〇）イギリスの小説家（ダブリン生まれ）。耽美的退廃的作風の作家と評される。代表作『ドリアン・グレイの肖像』『サロメ』など

語句

アンソロジー→詩や文章をセレクトして編集したもの。詞華集（しかしゅう）ともいう

敏捷＝びんしょう→すばやいこと。身体の動きだけでなく、頭のはたらきについても使われることがある

骨休め＝ほねやすめ→仕事の間に体を休めること

　cf.骨折り（ほねおり）→苦労や努力のこと／骨惜しみ（ほねおしみ）→苦労や努力を怠ること、なまけること

仰々しい＝ぎょうぎょうしい→見かけや言動が大袈裟（おおげさ）で派手であるさま。大仰（おおぎょう）

固執＝こしつ→自分の考えを頑固に押し通そうとすること。拘り（こだわり）・拘泥（こうでい）

自己陶酔＝じことうすい→自分の言動や容姿にうっとりすること。ナルシシズム

恫喝＝どうかつ→相手の弱みにつけこんでおどすこと

　cf.恐喝→相手の弱みにつけこんで金品をおどし取ろうとすること

割り切れない＝わりきれない→納得しきれないさま

崇高＝すうこう→高い境地にあって近寄りがたいこと　類義語…高邁（こうまい）

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

献身＝けんしん→自分の利害を考えず、相手のために奉仕すること

暗示＝あんじ→直接ではなくそれとなく示すこと・ほのめかすこと

超越的＝ちょうえつてき→人知や人力をはるかに超えているさま

顧みる＝かえりみる→気にかけること・心配すること。過去や自分の振る舞いを振り返るという意味もある

成就＝じょうじゅ→実現すること・なしとげること

示唆＝しさ→ほのめかすこと・それとなく教えること

連れ合い＝つれあい→一緒に行動する仲間・結婚相手・伴侶（はんりょ）・配偶（はいぐう）者

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）動物の死ガイを埋葬する　① 骸　② 害　③ 概　④ 涯　⑤ 凱

（イ）ギョウギョウしいお祭り　① 行　② 業　③ 凝　④ 形　⑤ 仰

（ウ）銅像に金パクを張り付ける　① 箔　② 白　③ 泊　④ 舶　⑤ 拍

（エ）厳しい冬がトウ来する　① 当　② 投　③ 倒　④ 到　⑤ 踏

（オ）結婚して所タイをもつ　① 対　② 帯　③ 体　④ 隊　⑤ 耐

（カ）純粋なハク愛の精神　① 白　② 迫　③ 博　④ 薄　⑤ 拍

（キ）自己陶スイを批判する　① 粋　② 酔　③ 睡　④ 垂　⑤ 衰

（ク）無ボウな試みを控える　① 謀　② 暴　③ 某　④ 望　⑤ 冒

（ケ）たくさんのギ牲を払う　① 義　② 儀　③ 犠　④ 偽　⑤ 戯

（コ）ケン身的な看護を続ける　① 兼　② 賢　③ 険　④ 験　⑤ 献

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　マーク式　その3

《小説》　テーマ「幸福な王子」

問１《漢字・選択肢》

従来のセンター試験では、第1問の論説にて、五つ出題されていた漢字が、本試行テストでは、第3問の小説で登場し、三つ出題になっています。それ以外は従来のセンターの漢字と同じ形式です。

以下漢字の解説をします。

（ア）は「仰々しい」と書き、大袈裟（おおげさ）という意味です。大仰（おおぎょう）も同義語です。⑤の「仰天」と同じ字を使います。こちらは驚いて天を仰（あお）ぎ見るという意味です。びっくりしてのけぞって、空を見上げてしまうイメージです。他の漢字も見ておきます。①「業績」、②「苦行」、③「凝縮」、④「異形」です。「異形」は見た目が普通ではなく異様で奇怪ということです。「いぎょう」という読み方もご注意ください。

（イ）は「到来」です。何かがやって来ること、到着することです。④の「用意周到」と同じ字を使います。こちらは準備がしっかりできていること、支度（したく）が行き届いていることです。選択肢はすべて四字熟語になっています。他を見ておきます。①「孤軍奮闘（ひとりでがんばること）」、②「本末転倒（大事ではないことが優先されてしまっていること）」、③「当意即妙（その場にふさわしい機転、発想、行動を即座にできること）」、⑤「不偏不党（偏りがないこと）」です。

（ウ）は「所帯」で、家庭のことで、⑤の「帯同」と同じ字を使います。こちらは同伴する、ともに行動するという意味です。他を見ておきます。①「悪態（悪口・人を罵倒（ばとう）すること）」、②「台頭（勢力が拡大すること）」、③「怠慢（なまけること）」、④「安泰（平穏で安心安全）」です。

問２《傍線部との合致・選択肢》

傍線部を説明したものではなく、意味内容として合致するものを同じ文章中の別の箇所から選ぶという形式の問題です。従来のセンター試験ではあまり見られなかったタイプの問題です。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ここでは傍線部中の「若者（ツバメ）」を「風変わり」と表現する根拠となる部分を選びます。「風変わり」というのは、容姿や振る舞いや発言や性格などが普通とは違うことです。一方、13～15行目、ちょうど波線が切れているところに、「来年、一緒に巣をこしらえて子どもを育てる連れ合いには、そこらを飛んでいる虫を素早く見つけてたくさんつかまえてくれる若者がふさわしい。遠くを見るまなざしなど必要ない」という表現があり、この「風変わり」なツバメとは対照的・対比的な若者像が示されています。67～68行目にも「遠くを見るまなざしなど持たず、近くの虫を見つけてせっせとつかまえ、子どもたちを一緒に育ててくれる若者」という表現が出てきます。どうやらこれが多くのツバメたちにとってスタンダードで望ましいあり方なのでしょう。いわば現実主義・リアリズムのツバメと言えましょう。これとは対比的な点が今回の「若者」の「風変わり」な特徴ということです。

したがって「でも、彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから――今まで見てきた北の土地について、これから飛んでいく南の国について、遠くを見るようなまなざしで語るばかりだったから、みんなそのうち興味をなくしてしまった」の③が正解です。〝そこら・近く⟷遠く〟が見事なコントラストですね。リアリストに対する「夢のようなことばかり語る」ドリーマーなわけです。

他の選択肢を吟味します。①「つやのある黒い羽に敏捷な身のこなし、実に見た目のいい若者だったから、南の国にわたる前、最後の骨休めをしながら翼の力をたくわえているあたしたちの群れに、問題なく受け入れられた」は容姿や振る舞いを話題にしている点は良いのですが、「実に見た目のいい」というポジティブ評価で、「風変わり」には妥当しません。

②はどうでしょうか。「あたしの友だちの中にも彼に興味を示すものは何羽もいた」では、「彼」の容姿・振る舞い・言動を記載になっていませんから×です。また「興味」もすでに×とした①の内容にあたるものですから、この点でも×です。

最後に④はどうか。「とはいえ嫌われるほどのことではないし、厳しい渡りの旅をともにする仲間は多いに越したことはないので、彼はあたしたちとそのまま一緒に過ごしていた」では、容姿や振る舞いや発言の説明ではありませんから×です。

問３《傍線部説明・選択肢》

傍線部Ｂ・【Ⅰ群】

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「わからない」については、傍線部Ｂ・Ｃ以外にもいくつかでてきます。それらも参照しましょう。46行目に「あたしにはよくわからなかった」とある。それで「どうしてあなたが、それ（「王子」の宝飾品を貧しい人に配ること）をするの？」と問います。この問いは結末近くの62〜63行目でも詳しく言い換えられています。すなわち「彼はなぜ、あの町に残ったのだろうか。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。あたしなどにはそんな志はわからないのだと。でも本当のところは、大好きな王子の喜ぶ顔を見たかっただけではないか」です。これらが根拠で、②「町の貧しい人たちを救おうとする『王子』と、命をなげうってそれを手伝う自分を理解するどころか、その行動を自己陶酔だと厳しく批判する『あたし』に、これ以上踏み込まれたくないと嫌気がさしている」を選びます。「誰かがしなければならない」や「尊さ」を力説する「彼」に対して、「あたし」のした対応が「自己陶酔だと厳しく批判する」とまで言えるのか疑問が残ります。ただ他の選択肢がはっきり誤りであることに比べれば、②を選ぶことになるでしょう。

では、他を吟味します。①は、まず「生活の苦しさから救われようと『王子』の像にすがる町の人々」が×です。本文にそのような記述はありません。また「町の人々の悲痛な思いを理解しない『あたし』」も×です。「あたし」が理解できない内容は「町の人々の悲痛な思い」ではなく「彼」の思いです。これは記述に反する誤りです。さらに「『あたし』の利己的な態度」も×です。〝夢のようなことを語る・理想主義⟷現実主義〟という対比はあっても、〝利他主義⟷利己主義〟という対比はありません。「あたし」は日々の餌の獲得や冬の寒さから生き残ることや子供を残すことに一生懸命ではありますが、他者を踏みにじり、自分さえよければよいというエゴイストではありません。これは正しい対比喪失の誤りです。

次は③を精査しましょう。まず「群れの足並みを乱させまいとどう喝する『あたし』」が×です。「彼」は群れに迷惑がかからないよう「自分に構わず発ってくれ」と言ったとされています。仲間のツバメも「彼のことは放っておけと言った」のに「気になった」のは「あたし」です。したがって記述に反する誤りです。「どう喝」も×です。脅しているのではなく問いただしているのです。さらに「暴力的な振る舞いに頼るばかり」は不当な限定判断です。逃げられないように足を踏んづけてはいますが、ちゃんと言葉で問いただしていますから。加えて、「裏切られた」も×です。〝信頼⟷裏切り〟という対比はありません。正しい対比喪失の誤りです。

傍線部Ｃ・【Ⅱ群】

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

　傍線部Cを含む「どうせあたしにはわからない」は、「彼」から「君なんかには、僕らのやっていることの尊さは[B]わからないさ」と突き放すように言われたことを受けています。またさっきも参照した62～63行目「彼はなぜ、あの町に残ったのだろうか。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。あたしなどにはそんな志はわからないのだと。でも本当のところは、大好きな王子の喜ぶ顔を見たかっただけではないか」もヒントになって、③「貧しい人たちを救うためというより、『王子』に尽くすためだけに『彼』は行動しているに過ぎないと思っているが、『彼』自身の拒絶によってふたりの関係に介入することもできず、割り切れない思いを抱えている」を選びます。

　ではその他の選択肢を吟味します。①は「『王子』に生命をかけて尽くしている『彼』のこともまたいまだに理解しがたく感じている」はよいのですが、「人間の態度は、ツバメである『あたし』にとっては理解できない」は×です。「理解できない」対象が「人間の態度」になってしまいました。【Ⅰ群】の①と同じ、記述に反する誤りです。また〝人間⟷ツバメ〟という対比も×です。〝「彼」と「王子」⟷「あたし」とツバメたち〟という対比が正しい対比ですから、これでは正しい対比喪失の誤りです。さらに踏み込んで言えば、ツバメたちは擬人化されており、人間と対比的なキャラ設定ではありません。加えて「『王子』の像を～祭り上げる」も×です。「王子」の像のまわりで「ギョウギョウしく騒いで」いる描写はありますが、相応の能力も魅力もないのに過剰に賞賛するという意味の「祭り上げる」は不適切です。〝お祭り騒ぎ〟と〝祭り上げ〟は似て非なるものです。こんな何気ないような語句の意味の違いは、従来のセンター試験でもよく出題されてきた、実はおなじみの誤りです。

　②はどうでしょう。まず「『彼』を突き放して」が×です。「気になっ」て「つかまえ」たのに、突き放されたと感じたのは「あたし」の方です。記述に反する誤りです。もちろん、本文に「『勝手にすれば』と言って、足をのけた」とありますが、「君なんかには～わからないさ」と突き放されて「腹が立った」からです。救うべき相手を突き放したのではありません。また「突き放してしまったことを悔い、これから先の生活にもその後悔がついて回ることを恐れている」とありますが、これも×です。むしろこれからの生活のことを考えたからこそ、これ以上の介入を避けたのです。記述に反する誤りです。

問４《全体の理解・複数文章の関係・選択肢》

　従来のセンター試験の小説にはなかったタイプの設問です。オスカー・ワイルドの『幸福な王子』のあらすじ＝文章（Ｘ）を

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

先行するベースとしつつ、光原百合のオリジナル部分＝文章（Y）が挿話（メインのストーリーとは別に、後から入れられたエピソード）になっています。また、人々から捨てられながらも神・天使に拾われるストーリー（X）が、「ツバメ」の「あたし」視点からの解釈（Y）になっています。図示すると次の通り。

（Y）ツバメたちの「あたし」視点の物語

太字までの内容は（Y）でも語られている。これ以降は南の国に飛び立った「あたし」の想像になっている。

（X）オスカー・ワイルド『幸福な王子』のあらすじ

一羽のツバメが渡りの旅の途中で立ち寄った町で、「幸福な王子」と呼ばれる像と仲良くなった。王子は町の貧しい人々の暮らしぶりをツバメから聞いて心を痛め、自分の体から宝石や金箔を外して配るよう頼む。冬が近づいても王子の願いを果たすためにその町にとどまっていたツバメは、ついに凍え死んでしまった。それを知った王子の心臓は張り裂けた。金箔をはがされてみすぼらしい姿になった王子の像は溶かされてしまうが、二つに割れた心臓だけはどうしても溶けなかった。ツバメの死骸と王子の心臓は、ともにゴミ捨て場に捨てられた。その夜、「あの町からもっとも尊いものを二つ持ってきなさい」と神に命じられた天使が降りてきて、ツバメと王子の心臓を抱き、天国へと持ち帰ったのだった。

「あたし」視点の解釈のメインはすでに何度も参照している62〜63行目の「貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。あたしなどにはそんな志はわからないのだと。でも本当のところは、大好きな王子の喜ぶ顔を見たかっただけではないか」です。ここには〝「彼」の思い⟷「あたし」の解釈〟〝貧しい人たちを救うため⟷大好きな「王子」の喜ぶ顔を見たかっただけ〟という対比が表現されています。この対比は②の「献身的な『王子』に『彼』が命を捨てて仕えた〜が〜個人的な願望に基づく」と合致します。

以上から②「Xの『王子』と『一羽のツバメ』の自己犠牲は、人々からは認められなかったものの、最終的には神によってその崇高さを保証される。Yでも、献身的な『王子』に『彼』が命を捨てて仕えただろうことが暗示されるが、その理由はいずれも、『あたし』によって、個人的な願望に基づくものへと読み替えられている」が正解です。

さて、もう一つ「あたし」視点の解釈が及んでいるのが、「王子」さまの意図です。64〜65行目と70〜71行目に注目しましょう。「そうして王子はなぜ、彼に使いを頼んだのだろう。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。でも……」と「あ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

なたはただ、自分がまとっていた重いものを、捨てたかっただけではありませんか。そして、命を捨てても自分の傍にいたいと思う者がただひとり、いてくれればいいと思ったのではありませんか——と」です。ここから⑥「Xでは、貧しい人々に分け与えるために宝石や金箔を外すという『王子』の自己犠牲的な行為は、『一羽のツバメ』の献身とともに賞賛されている。それに対して、Yでは、『王子』が命を捧げるように『彼』に求めつつ、自らは社会的な役割から逃れたいと望んでいるとして、捨てるという行為の意味が読み替えられている」になります。〝人間が「王子」と「彼」を捨てる／他者のために自己を捨てる〟というXの「捨てる」が、Yでは「自分がまとっていた重いもの（「王子」像の宝飾品は、若くして死んだのちも像としてプリンスらしくあらねばならない重責の象徴）」を捨てると読み替えられているわけです。

では、他の選択肢を吟味します。①は、まず「神の視点」が×です。記述に反する誤りです。神も天使もあらすじ中の登場人物にすぎません。あえて言えば、原作者オスカー・ワイルド視点のダイジェストです。次に「普遍的な博愛の物語」が疑問です。こうした「自己犠牲」と「救済」が古今東西どこでも、いつでも当てはまる「普遍的」なものか、本文には根拠がありません。第三に、「神の存在を否定」が×です。Yでは神様は出てこないだけで「存在を否定」ではありません。第四に「『彼』と『王子』のすれ違い」が×です。対比は〝「彼」⟷「あたし」「ツバメたち」〟であって、「彼」と「王子」はむしろセットです。同質性分断の誤りです。

次は③です。まず、「感情的」が×です。むしろ現実的です。記述に反する誤りです。また、〝「あたし」「感情的」「女性」⟷「彼」「理性的」（男性）〟は絵にかいたような典型的な、正しい対比喪失の誤りです。あきれ返ってでんぐり返ります。第三に、「超越的な神の視点も破棄」が①と同様の間違いです。Yで神様は出てこないだけです。第四に、「Xの幸福な結末を、『あたし』の介入によって、救いのない悲惨な結末へと読み替え」が×です。他者貢献の自己犠牲への疑いはあれども「救いのない悲惨な結末」ではありません。記述に反する誤りです。

次に④はどうでしょうか。まず、「『一羽のツバメ』と『王子』が誰にも顧みられることなく悲劇的に終わるX」が×です。天使や神による救済がありましたね。記述に反する誤りです。また「誰にも」という表現は、不当な全称判断です。さらに「Yは、『彼』と家庭を持ちたいという『あたし』の思いの成就を暗示する恋愛物語」も間違いまくってます。「あたし」は一貫して「彼」とは違う現実的な伴侶を求めていますから、記述に反する誤りです。また、61行目に「彼もきっと、もう死んでしまっているだ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ろう」とありますから、「成就」も記述に反する誤りです。

最後に⑤です。まず「愚かな人間たち」が×です。そのような決めつけやキャラ設定は出てきません。また、「仲間によって見捨てられた『彼』」も×です。「彼」は自ら他のツバメとは違う進路を選んだのです。記述に反する誤りです。さらに『あたし』によって『王子』のための自己犠牲として救済される」も×です。救済ではなく疑いですよ。記述に反する誤りです。

問５《構成や表現に関する説明・選択肢》

【Ⅰ群】【Ⅱ群】のマッチングという形式こそ新しいですが、基本的には従来のセンター小説と大きな差はありません。①から吟味していきます。「最終場面」とありますから、ｃ「56行目以降の『あたし』のモノローグ（独白）」に当てはまるでしょうか。「王子」と北に残った「彼」のストーリーと、南にわたりそこから想像する「あたし」の時間は平行しています。次ページに図示した通りです。したがって、「最終場面における物語の出来事の時間と、それを語っている『あたし』の現在時とのずれ」は誤りです。例えばまる一年後からの回想というようにはなっていません。ちなみにａ・ｂにもどれにも当てはまりません。

次に②はどうか。「彼」とあるのでｂとの合致の可能性があります。12行目の「――」の後は「今まで見てきた北の土地について、これから飛んでいく南の国について、遠くを見るようなまなざしで語るばかりだったから」とあります。「――」直前の「夢のようなことばかり語るものだから」の具体的言い換えになっています。したがって「『彼』の性質を端的に示した後で具体的な例が重ねられ、その性質に注釈が加えられている」にピッタリです。ｂ＝②と決まります。

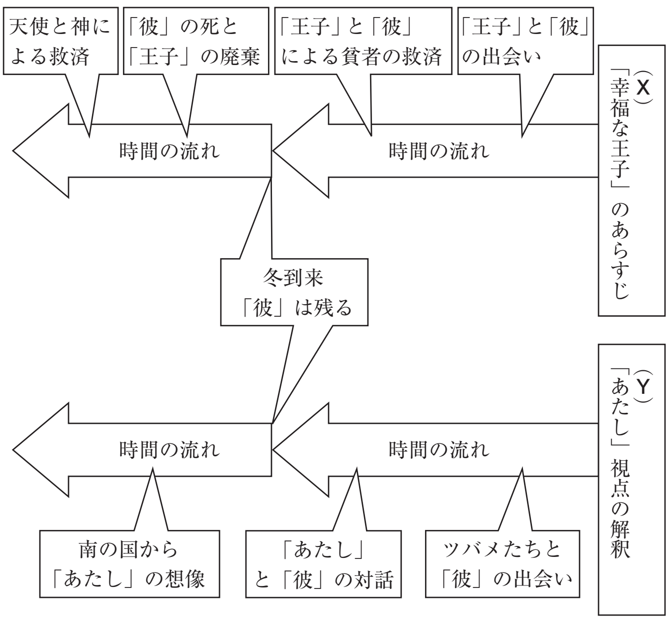
次は③です。ここにも「彼」とありますから、ｂとの合致の可能性がありました。しかし「――」は、右で見た通り、具体的な言い換えを導いていました。「断定的な表現を避け、言いよどむ」、つまり言葉が続かないということではないのです。マッチングならず。×です。

次の④はどうか。「『王子』の像も人々に見捨てられる」はａ「1～7行目のオスカー・ワイルド作『幸福な王子』の記載」にしかありません。オリジナル部分の「あたし」の想像は、「彼」の死を含みますが、「王子」が廃棄されることまでは含みません。「王子」像が立っている前提で、「王子」の真意を聞きたいと言っているのでした。したがって、「『王子』の像も人々に見捨てられるという、『あたし』にも想像できなかった展開が示唆されている」はａと合致します。ａ＝④です。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

では⑤はどうでしょう。「『あたし』の〜心情」ですから、cとかかわりがありそうです。実際の56行目以降の独白では、表面上は貧しい人たちの救済に励む「彼」「王子」の行動や思いについて、「わからない」としながら「本当のところは〜ではないか」「でも〜ではありませんか。〜ではありませんか」と疑問を出している。これを「『王子』や『彼』の行動や思いに対して揺れる複雑な心情」と表現してもOKでしょう。c＝⑤です。

最後の⑥はいかに。「『あたし』の内面的な成長」がどこにも適合しない×です。「あたし」は最初から最後まで現実眼前のことに注視しています。前半・後半、ビフォアアフターの対比ではないのです。この点で正しい対比喪失の誤りです。



© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

問１　（ア）＝⑤　（イ）＝④　（ウ）＝⑤

問２　③　問３　Ⅰ群＝②　Ⅱ群＝③　問４　②・⑥（順不同）

問５　a＝④　b＝②　c＝⑤

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　模範解答

（ア）①　（イ）⑤　（ウ）①　（エ）④　（オ）②
（カ）③　（キ）②　（ク）①　（ケ）③　（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）死骸　（イ）仰々　（ウ）金箔　（エ）到来　（オ）所帯
（カ）博愛　（キ）陶酔　（ク）無謀　（ケ）犠牲　（コ）献身

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。